

平成15年度 施策評価表

○総合計画における位置付け等

平成15年6月11日記入

基本目標	Ⅱ ▼ ゆとりある みどり豊かな環境共生都市をめざして	施策コード	24220
政策名 (章)	第4章 美しいまちなみと良好な居住環境を創造します	評価担当課	建築部 ▼
基本施策名 (節名)	第2節 良好な住まいづくりの推進		住宅課
施策名	良質な住宅の供給	課長名	岡崎 忠

1 施策の概要・目的

住宅に困窮する世帯に良質な居住水準の市営住宅を計画的に供給します。
高齢者や障害者のための福祉的機能を備えた市営住宅の整備を推進します。

2 施策の現状

厳しい財政状況の中、依然として応募倍率は高い水準(過去3か年平均6.8倍)にあるものの、「相模原市住宅基本計画」に定める市営住宅の計画的な供給が困難となりつつある。

3 総事業費及び人員

(1) 施策に要している総事業費

237,197 千円……構成事務事業全体の事業費合計(人件費含む)

(2) 市民1人当りの事業費

385 円/人……人口は、**61.6** 万人とした。(平成15年4月1日現在人口)

(3) 全施策中の順位(事業費)

この施策の市民一人当たり事業費は、全123施策のうち、第 **66** 番目です。

(4) 施策に要している人員

1.95 人……構成事務事業全体の人員合計

4 評価指標

指標	指標名および指標式	指標の意図	現状値と目標値		目標	
			現状	目標	目標年度	
指標1	市営住宅供給率 現在までの住宅供給戸数/3,044戸(相模原市住宅基本計画に定める平成22年供給目標)	目標値に対する市営住宅の供給状況を表す。	現状	1,978 戸	0 50 100	目標年度 平成22年
			目標	3,044 戸	達成度 64.98%	
指標2	高齢者世帯向け市営住宅供給率 現在までの住宅供給戸数/589戸(相模原市住宅基本計画に定める平成22年供給目標)※指標1の内数	目標値に対する高齢者世帯向け市営住宅の供給状況を表す。	現状	319 戸	0 50 100	目標年度 平成22年
			目標	589 戸	達成度 54.16%	
指標3			現状	単位	0 50 100	目標年度
			目標	単位	達成度 %	

5 必要性…市民ニーズに合っているか、行政需要の変化に対応しているか

市営住宅の需要動向(過去3年間の平均応募倍率は6.8%)を踏まえ、計画的な住宅の供給を推進する必要がある。
長寿社会に対応し、高齢者の生活特性や環境に配慮した住宅として整備している。

6 有効性…期待される効果があがっているか

市民からの入居希望は多く、過去3年間の平均応募倍率は6.8倍である。

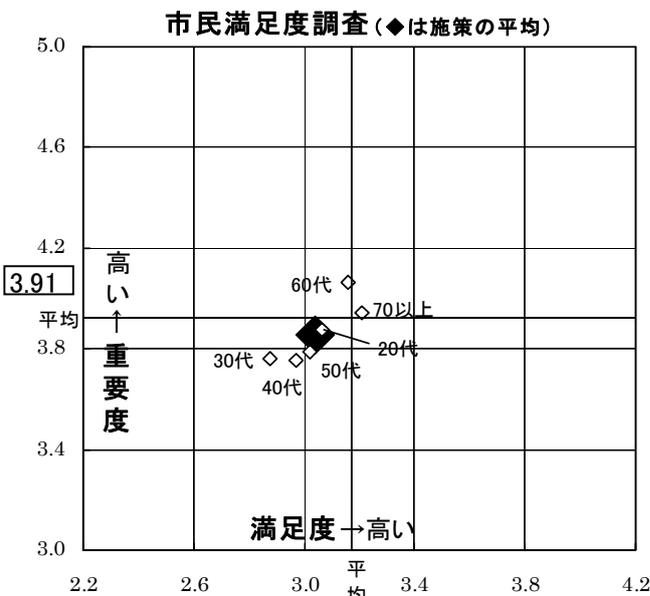
7 効率性…費用対効果が優れているか、もっと大きな効果が得られるものはないか

市営住宅の整備に際しては国の補助を受けることにより、市の負担額が少ない中で事業を推進することができる。

8 市民満足度調査結果からの分析(平成15年度調査)

- ◆この施策の満足度は、3.038で、調査した51施策の中で42番目です。
- ◆この施策の重要度は、3.858で、調査した51施策の中で28番目です。
- ◆この施策の改善要望度は、0.580で、調査した51施策の中で22番目です。

◇年齢別にみると、満足度及び重要度ともに60歳代以上で高く、30歳代及び40歳代で低くなっています。満足度が高いほど重要度も高くなる傾向がみられます。



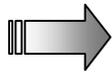
市民満足度調査は、基本施策51項目(節)について調査しています。したがって、上位の基本施策が同じ場合は同じ内容となっています。(「〇総合計画における位置付け等」参照)

9 課題…施策を実現するにあたり、課題となっていること等

平成14年度までは、相模原市住宅基本計画に定める平成22年供給目標を達成すべく事業を進めてきたが、厳しい財政事情の中、目標の達成が困難となりつつある。こうした状況の中、財源を確保するため住宅使用料の収納率向上対策に努めている。

10 今後の方向性(一次評価)

- 今後の方向
- 拡充する
 - 現状維持する
 - 見直し



説明及び具体的内容
 厳しい財政事情の中、住宅の整備計画を一部先送りせざるを得なくなっている。

11 2次評価

- 説明
- A 建設、管理の両面において、民間活力の活用の拡大などを検討すること。
 - B
 - C

12 外部意見

説明
 厳しい経済情勢の下、民間住宅を含めた需要の動向を勘案しながら整備を行うべきである。

